

【八戸特派大使通信】第3回 笹ノ内 健一

更新日：2020年01月07日



笹ノ内 健一（ささのうち けんいち）/ 商工中金審査第一部担当部長



昭和29年和歌山県新宮市生まれ。

昭和52年商工中金入庫。平成10年～12年同八戸支店長。現在、同審査第一部担当部長。

追想「八戸」（思いつくままに）

思えば、平成10年3月に八戸支店長を拝命し、八戸と縁ができておかげさまで早7年たちます。

南国「和歌山」生まれで東京より北に住んだことのない私にとって、八戸勤務を命じられたときは、驚きと共にまず思い浮かんだことは「寒さ」でした。

当時JR八戸駅に降りた時は、ちょうど寒くて古い駅舎だったため、「一層辺鄙（へんぴ）な所に着任したなあ」と感じました。

ところが着任後2年在任して、「こんなに素晴らしい所はない」という感想をもって離任しました。そんな思いを思い出すままに、寄稿させて頂きたいと思います。

まずは、「メリハリのきいた自然」です。特に「春を待つ」という気持ちがどれほど深いのかです。冷たい地べたが徐々に暖くなり、5月の連休が過ぎたころの野山が一斉に新緑になり、花は鮮やかに咲く自然環境の素晴らしさです。本当に「春が来た」と実感しました。

次に、「人の心の暖かさ」です。不肖私のような者でも、無事八戸支店長をつつがなく勤められたのも、ひとえに地元の皆さんのおかげです。わからないことや知らないことがあれば、「親切に」ご指導賜り、また辛いことや悲しいことがあっても「お互いみんなで励ましあい、助け合う」という世知辛い世の中であって人としての原点を感じました。

八戸を離任後、2年本部勤務後の平成14年3月には八王子支店長を拝命し、その時の挨拶言葉は「八から八へ（八戸から八王子へ）。ちょうど私が年男でもあり、始終末広がりで皆さんよろしくお願いします。」で割りと言葉には好評でした。

八王子は経済・行政等々ほとんどが八戸の倍の規模で、お取引先等とお会いするときの名刺交換は、金庫の名刺と八戸大使の名刺を手交させていただきました。

八王子支店では、取引先のうち若手経営者で構成されているユース会会員約20名が御地にお伺いし、八戸支店ユース会の会員の皆さんと交流会を開催し、その後も広島と八王子で交流会を開催しています。また、お取引先の会の中金会でも総勢50名（内14組が夫婦同伴）が御地にお伺いし、合わせて70名強の方に八戸を広めたという点では、一応私もそれなりに八戸大使の役目を果たしているかと思っています。

結びに当たり、ちょっとキザですが「我が人生に悔いあり、我が八戸支店長に悔いなし」と今でも思っています。また機会があれば、御地にもお伺いし、御地の良さを再確認した上で、八戸大使として微力ながらも八戸をアピールできればと思います。

中村市長を始め、皆さんの今後のますますのご健勝とご活躍をお祈りし、筆を置きます。

（「広報はちのへ」平成17年 7月号掲載記事）